

外国につながるのある子ども達のキャリア形成に関わる 教育及び生活課題の質的分析

星野 洋美, 江口 佳子, 厨子真由美
三村 友美, 福島みのり

The Characteristic of Career Formation Support for Foreign Children

Hiromi HOSHINO, Yoshiko EGUCHI, Mayumi ZUSHI
Yumi MIMURA, Minori FUKUSHIMA

2016 年 11 月 18 日受理

Abstract

The purpose of this study is to clarify the characteristic of career formation support for foreign children

Statement of problem: In Japan, the education curriculum of Brazilian schools follows the educational system of Brazil. After returning to their home country, students of the Brazilian schools can get an education certificate and avoid risks associated with enrollment in a new school or finding employment.

The education curriculum of Japanese public schools follows the educational system of Japan. A Japanese education certificate is not accepted in Brazil. After returning to their home country, Brazilian students who were enrolled in Japanese schools run risks in matters of re-enrollment and employment.

Despite coming to Japan on the premise of returning home, many Brazilian students go to Japanese public schools. Despite coming to Japan on the premise of returning home, many graduates of Brazilian schools decide to go to college and get a job in Japan. It has been observed that: “the actual situation does not match the premise stated above.”

キーワード：キャリア形成、外国につながるのある子ども、多文化共生、民族学校、
自己効力感 career formation support

1. 研究の背景

厚生労働省が発表した「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（平成 27 年 10 月末現在）によると、外国人労働者数は約 91 万人と届出義務化以来過去最高となっており、

ここ3年連続で過去最高を更新し続けている。さらに、外国人労働者増加に伴い日本語を母国語としない児童生徒も増加傾向にある。文部科学省が公表した「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成26年度）」の結果について見ていくと、平成26年5月1日現在、公立の小中高校と中等教育学校及び特別支援学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒は29,198人で、前回調査時（27,013人）より2,185人増加した。学校種別の在籍者数では、小学校では1,730人、中学校では251人、高等学校では135人、中等教育学校では32人、特別支援学校では37人と、全体的に増加していて、小学校での増加が最も顕著となっている。

日本では、外国人がその保護する子を公立の義務教育諸学校に就学させることを希望する場合には、無償で受け入れており、教科書の無償給与や就学援助を含め、日本人と同一の教育を受ける機会を保障している。公立の小中学校における外国人児童生徒の増加は、平成2年の改正入国管理法施行から始まっており、日本語指導が必要な外国人児童生徒への指導のあり方について様々な策が講じられてきている。文部科学省初等中等教育局は、平成23年に「外国人児童生徒の受け入れの手引き」をまとめ、平成24年には、日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議が設置され、平成25年にその審議のまとめが報告されている。文部科学省初等中等教育局国際教育課による平成27年11月5日の外国人児童生徒等に対する教育支援に関する基礎資料（学校における外国人児童生徒等に対する教育支援に関する有識者会議（第1回）配付資料）でも、日本語指導が必要な児童生徒を対象とした様々な支援策が提示されており、学習支援だけでなく、将来を見据えたキャリア教育に関する支援にも着目していることがわかる。

外国人児童生徒の進路に関する研究として、高校進学（主に特別入学枠）に関する実態と課題及びそれらに関わる進路教育の体制やその施策についての研究（細川2011、小島2012）や、進路の意識についての研究（松岡2007）があるが、進路決定要因となる家庭環境（生涯設計、経済状況、親の成育歴など）と、生徒の学力や生きる力といった教育課題をリンクさせた調査研究が未だ十分に行われているとは言い難い状況である。

本研究では、外国人児童生徒の卒業後の生涯設計を左右すると思われる“彼ら自身の教育課題および生活課題”について明らかにしていきたい。グローバル時代の日本において共生社会の一員である滞日外国人の生涯設計を見据えての教育や生活サポートの在り方を決める上で重要な研究であると考えたからである。

2. 研究の目的及び方法

地域構成員である滞日外国人とのより良い共生を模索する中、滞日外国人の生涯設計を見据えての教育や生活サポートの在り方を追究していく上で重要な指標となる“教育課題や生活課題”について明らかにすることを目的に本研究を立ち上げた。

研究の一部となる今回提示する調査研究方法は、参与観察および生活・教育状況調査で、主となるのは質問紙を用いた生活・教育状況調査と考えている。まず、静岡県

内で最も外国人の人口割合が高い外国人集住地域K市において、公立小中学校に在籍する外国人児童生徒および外国とつながりのある児童生徒を対象に、観察を行なうとともに、教育状況・日本語や基礎学力および生活環境・生活課題解決能力等に関する調査を行う。その際、質問調査票については、在籍する児童生徒の母国語あるいは第一使用言語を用いる。日本語以外に英語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語・中国語、必要に応じてハングル語での作成を試みることとする。調査票の内容は巻末資料1に示した通りである。どの言語も日本語と並列で表記する形式をとっている。

調査実施後は、調査集計・結果の分析を通して教育課題や生活課題を明らかにする。本結果については、今後の教育および生活の支援活動に生かしていきたいと考えている。研究全体の成果として、大学生や一般の方々が地域貢献活動の一環として教育サポートや生活サポートをおこなう際の留意点等をまとめた冊子（手引書）という形で整理していく。

3. 研究結果および考察

(1) 参与観察

1) 公立小中学校での学び

調査対象の公立小中学校では、外国人児童生徒が転入後に授業や生活で困難が生じないために、外国人児童生徒は転入前に必ず「虹の架け橋」教室に通って日本語をはじめとした学校生活適応に必要な学習を習得することが義務付けられている。そして、公立小中学校に在籍中には日本人児童生徒とともに学ぶ一斉授業と取出し授業の両方が行われ、JSLカリキュラム注1などの積極導入が見られるなど、支援体制が充実している。

多くの外国人児童生徒たちは在籍学級で生活する時間が圧倒的に多い。全ての教科において外国人児童生徒のみの授業を行なうことができる外国人支援クラスがあっても良いのではないと思われるが、多くの外国人児童生徒が在籍する学校でもそれは不可能である。その理由として、外国人児童生徒それぞれの日本語習得状況や学力の差が違いすぎる、母国が様々であること、そして在籍期間が不安定であること等、外国人のみのクラスを創設することが困難とされる要素が大変多いことが挙げられる。しかし、最も大きな理由は、日本の公立学校では、彼らが日本語を習得して日本の教育を受けることや日本の生活に馴染むこと、つまり日本への適応が最重要課題となっていることから、その課題解決として教育の場でできる限りの努力を行なうことが使命であると考えていることであると思われる。例えば、キャリア教育についても日本で進学或いは就職することを想定した進路支援が行なわれており、現在日本で仕事に就いている先輩外国人を成功モデルとして、学校に招聘することもある。

母国で進学或いは就職するのならば、民族学校等に通うべきと考えるのが当たり前である。例えばブラジル人学校などの民族学校では、ブラジルの教育カリキュラムを取り入れ、ブラジルの学歴取得を可能にすることで、帰国後の進路選択がスムーズとなるようにしている。（拝野 2010）しかし、近くに民族学校がない、民族学校に通

わせるだけの財力がない、親の子どもの教育への関心が薄い、あるいは親が仕事で忙しくて子どもの問題に気づかない・気づいても何も出来ないといった理由から、公立の小中学校に通わざるをえない子どもが多い。もしも、日本の公立小中学校に在籍するブラジル人やペルー人児童生徒が卒業後に帰国するとなると、日本の学歴取得が帰国後の進路を阻むことになる可能性が高いことは言うまでもない。

この結果から、親の価値観や経済状態などに関わる家庭という環境因子が、外国人児童生徒の将来に多大な影響を及ぼすことがわかった。

2) 支援が必要な児童生徒の多様化

公立小中学校及び高等学校では、国際化の中で支援が必要な外国籍および日本国籍を持つ児童生徒に配慮し、人権的な見地から「外国につながるのある児童生徒（あるいは外国にルーツを持つ児童生徒など）」と言うようになった。“外国人児童生徒”という言い方を改めて「外国につながるのある児童生徒」という言い方にした理由は、人権的な配慮であるとともに、日本語等の支援が必要な児童生徒が多様化しているからである。

例えば、両親とともに来日して日本で暮らすようになった外国人の子ども、親は外国人であるが日本で生まれ育っている子ども、帰化して日本国籍を取得した親を持つ子ども、日本人と外国人の親を持つ子ども、海外で長期滞在し来日した日本人の子ども、あるいは何らかの理由で二重国籍となっている子どもなど、多様な生活背景を持つ子どもがいて、日本語等の支援がどれだけ必要であるのかも分かりにくくなっている。

日本語支援が必要な児童生徒と一口に言っても、簡単な日常会話すらできない、生活上困らない程度の日常会話ができてでも学年相当の読み書きはできない、日常の会話に支障が無くても学年相当の学習言語がわからず授業が苦痛になっている、日常の会話に支障は無く学年相当の授業も理解できる能力はあるものの集中力が持続しない、日常の会話に支障が無く学年相当の授業をきちんと理解でき積極的に参加している等、児童生徒によって様々であることが、参与観察を通して実感できた。

(2) 外国とつながりのある児童生徒を対象とした生活・教育状況調査

1) 調査概要

- ①調査の種類：教育・生活環境に関する質問紙による調査
- ②調査期間：2016年3月1日から3月31日まで
- ③調査対象：K市の公立小中学校の外国につながるのある児童・生徒60名（小学校5年生および6年生42名 中学校2年生18名）と、その親60名。
- ④質問内容：巻末資料I参照

2) 結果および考察

A) 家族背景について

参与観察により、日本語等の支援が必要な児童生徒が多様化していることがわかったが、本調査により多様な家族背景の実態が明らかになった。その内容について、参

与観察の2)に示した分類にしたがって以下に記す。

- ・両親とともに来日して日本で暮らすようになった外国人の子ども：対象地域では圧倒的に多いのは日系南米人で、両親ともにブラジル人或いはペルー人といった同国者同士が多い中、ブラジル人とペルー人といった異国者同士も1件あった。

次に多いのはフィリピン人であった。全国的に2011年を境に、ブラジル人とフィリピン人の滞日人数が逆転しているが、対象地域でも徐々にフィリピン人数が増えている。

彼らについては、日本語支援が必要であることは言うまでもないが、来日時の年齢や滞日の期間により、現在の日本語支援の在り方が異なっている。

- ・親は外国人であるが日本で生まれ育っている子ども：平成2年の入国管理法改正後に来日した日系南米人の第2世代となっている。親世代は来日して日本に住んでいるのであるが、その長期化に伴い子ども世代が日本生まれ日本育ちとなったといえる。

- ・帰化して日本国籍を取得した親を持つ子ども：両親とも中国人であったが、父親が単身赴任しての日本で仕事が軌道に乗ったことから、家族を呼び寄せて生活することとなった。治安と経済状況の面での良さから帰化を希望したという。最初は、小中学校における質問紙調査の対象から外れていたが、日本語支援がやや必要であることが分かり、後に追加対象となった。

- ・日本人と外国人の親を持つ子ども：フィリピン人の母親と日本人の父親を持つ子どもが2件あった。夫婦の年齢差が大きく、主な養育者が母親であることや、日本語でなくフィリピン語の質問調査にフィリピン語で回答していることから、子どもに日本語支援が必要であることが推測される。また、母親が子供を連れて母国に里帰りする頻度が多く期間が約1カ月と長いことが、日本語だけでなく学習の発達遅延を招いているのではないと思われる。

調査対象者の中には、親と子の日本の滞在期間が異なることから、フィリピンで暮らしていた子どもを後から呼び寄せた例も1件あった。この子どもについては、単独で来日して日本で暮らすようになった外国人の子どもという分類になる。小学校中学年まではフィリピンで暮らしていたことから、来日後に日本語の支援が必要になっている。

- ・海外に長期滞在し帰国または来日した日本人の子どもや、二重国籍となっている子どもについては、本調査対象者の中に該当者はいなかった。

B) 学校生活について

外国につながるのある児童生徒の公立の小中学校に対する評価は、「楽しい」が約75%、「どちらとも言えない」が約21%、「楽しくない」が約4%となっている。

「どちらとも言えない」という回答をした人と「楽しくない」という回答をした人の「学校で困っていることは何ですか。」の質問に対する答えは、「人間関係」14%、「宿題が多いこと」43%、「勉強についていけないこと」14%、「言葉がわからないこと」14%、「給食が嫌」14%の5つとなっている。学校が楽しいと回答しているにもかかわらず

わらず学校において人間関係トラブルで困っていると記した児童生徒もいるように、どんな状況でも人間関係トラブルは起きようであるが、学校が楽しくないと思える生徒の記述事項によると「クラスのみならず仲良くなれないことから孤立してしまった」ということで、クラスメイトの多くが日本人であることや、この生徒が日本語の問題をクリアしている状況から、深刻な課題と捉えることができる。

C) 言葉について

- ・学校：友だちの日本語は95%が「わかる」と回答しているが、授業中の先生の日本語は「少しわかる」や「わからない」という回答が32%となっていた。取出し授業は、少数であることやブラジル語やフィリピン語の支援員がつくこともあり、言葉の問題は殆ど無い。しかし、一斉授業では支援員がいても、授業者の言葉が早く、難解な用語が入ってくることで、戸惑う児童生徒が多い。特に、滞在期間が短い児童生徒は、「虹の架け橋教室」を修了していても、日本語に慣れていないために、授業についていくことができない状況が見られた。

- ・家庭：家で主に話している言葉は「日本語」と答えた児童生徒は約20%であった。家での使用言語は殆どが母国語である。中には、ペルー人とブラジル人を親に持つ児童がいて、ポルトガル語とスペイン語が混ざっているという例もあった。

家で母国語、学校では日本語となっているが、小学校で1年生から日本語の読み書きをきちんと学んでいる子どもたちは、日本語が主言語（First language）という意識が強い傾向となっている。小学校低学年時に「虹の架け橋教室」を経て日本の学校に入った児童生徒と、日本生まれで日本育ちの児童生徒（保育園～公立の小中学校に通う）は、母国語を理解し話すことができて、読み書きは日本語の方が得意であるという。

D) 将来の希望について

- ・以下の表2より、将来の進路希望の多くは高等教育機関への進学を考えていることが分かる。母国ではなく日本の中学校・高等学校・大学等へ進学することを前提としており、帰国することは考えていない児童生徒が100%となっている。日本の学校に通って、日本の教育を受けているからこそこの回答となっていることがうかがえる。

しかし、親への質問調査の結果では、母国に帰ると決めている親の存在が見られた。2つの調査結果の擦り合わせを行なうことにより、児童生徒の将来への思いと親の将来設計とのズレがあることが明らかとなった。先述のように、帰国を前提としての滞日であるのならば、母国の教育カリキュラムを取り入れ、母国の学歴取得を可能にしている民族学校に通わせるべきである。日本の学校に通って、日本の教育を受けていれば、日本での将来の姿を思うことが当たり前となってしまう。授業料や教材費が家計を圧迫することが目に見えている民族学校に通わせることはできないが、せめて日本の公立小中学校で教育をきちんと受けてほしいと願う親の気持ちはわかるが、このズレは現在においても将来的にも深刻な問題であると思われる。

- ・学校が楽しくないと回答し、学校で困っていることは勉強についていけないことと答えた児童については、将来の希望が中学校までは卒業するとなっており、将来就き

たい仕事は服等の販売員となっている。同じく学校が楽しくないと回答し、学校で困っていることは勉強についていけないことと答えた生徒については、義務教育を終えた後、工員或いは販売員などになりたいと答えている。

非熟練労働に就くことを厭わないことや、ある一定の階級に固定されることを受容していない傾向は、昨今の日系南米人の大人の特徴となっている。日系人であるということで日本と母国の両国間の移動が比較的自由であり、帰国か滞日かといった選択肢があることにより、職業選択へのこだわりが無いと思われる。

4. まとめ（課題と対策）

○杉岡（2007）が進路意識の親子間不一致について指摘しているように、今回の調査結果から、親の将来設計と子どもの将来への思いとのズレが顕著になった。この件をはじめとした注目すべき調査結果や分析結果（例えば、将来設計について全く考えていない刹那的な生き方をしている親の存在や、親の都合での行事欠席と子どもの疎外感との関係等について憶測できることなど）については、必要に応じて次段階の研究調査（親と子の面接調査など）をおこない、生涯設計を見据えての教育や生活サポートの在り方を追究していく上で重要な指標となる“教育課題や生活課題”についての正確な情報を入手したい。

○親の将来設計と子どもの将来への思いとのズレの問題については、公立小中学校のみでなく、民族学校でも生じている。帰国を前提として子どもを民族学校に通わせている親が多いことは確かであるが、公立小中学校に行けないから通わせているという例もある。拝野（2005）および杉岡（2007）は、ブラジル人学校のケースについて、「ブラジル人学校は、帰国を前提とした教育を与える場だけでなく、日本でいじめや文化差によって公立学校に適応できない子どもの受け皿となっている」と指摘している。このことについては、ブラジル人学校の校長との面談の中でも出てきたが、そこでの内容は、公立小学校でいじめられたからとブラジル人学校に入った児童は、日本語もポルトガル語も理解できない為に、両方をどう指導するのか大変困っているということであった。このことから、民族学校の児童生徒にも調査の必要性を感じた。

○児童生徒への質問紙調査の分析を通して、現在の“外国につながるのある児童生徒”の学習や生活態度についての自己評価に関するデータが少なく感じた。次期調査において、現在の彼らの自己評価につながる自己効力感を知るための調査項目を入れていく。検討段階ではあるが、Bandura（1977）及び坂野・前田（2002）が提唱する自己効力感の意味や概念を踏まえ、キャリア形成に関わる項目を作成した。（資料3参照）

○親への調査について、今回は親の養育態度中心の内容となっていたが、親の学歴や経済状況についても児童生徒の学習意欲や将来設計に対して影響を及ぼす可能性があることから、親の成育歴や所得についての項目を加えていきたい。

○質問紙による調査については、サンプル数、有効回答数が少なかった。今回の調

査地域における対象年齢の外国人児童生徒人数が 100 名以下であったが、この結果を踏まえて有効回答の比率を割り出し、次年度の調査を行なっていきたい。また今回の調査は、学校側の協力と紙面でのお願いのみで、調査者が対象者に直に説明することがなかったので、次回は直に説明を行なうなど、出来るだけ多くの有効回答を得るよう努力したい。

表 1 : Students with foreign nationality or foreign family member(s)

(The number of valid responses : 42/60)	Foreign parents			Japanese parent and foreign parent		Single parent	
	Brazil	Brazil and other	Other	Brazil	Other	Brazil	Other
Elementary school Fifth graders and sixth graders 32/42	22	1 (Peru)	6 (4:Phil) (1:Vie) (1:Per)	1	1 (Philip)	1	
Junior high school Eighth graders 10/18	6		3 (1:Phil) (2:Per)			1	
	28	1	9	1	1	2	

表 2 小学生:S (学校)、P (問題)、C (希望進路)、F (就きたい仕事)、W (親の安心度)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
S	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	×	○	△
P	人間関係				人間関係									言葉・勉強	宿題・勉強		宿題多い	宿題多い				勉強難しい		宿題・給食
C	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	大学	高校	高校	高校	高校	高校	高校	中学	中学	中学
F	パイロット	スポーツ選手	歌手	宇宙飛行士	看護師	卓球選手	獣医	PC関係	体育教師	サッカー選手	パティシエ	機械製造	小説家	アナウンサー	小説家	美容師	PC関連	俳優	声優	建築家	俳優	服の販売員	会社員	ユーチューバー
W	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎		○	△	○	◎	◎	◎	○	○	○	△	○	◎	△	△	△

資料 1－1 調査 I（小学生用 日本語－英語）（＊日本語のふりがなを省略して記載）

調査 I（小学生用） Survey 1（for children）

アンケート調査のお願い Survey

みなさんへ

こんにちは。私たちは、日本に住んでいるみなさんの毎日の生活の様子や考え方を聞いて、みなさんの教育や将来のことについて考え、教育のために役立てたいと思います。アンケート調査に、ぜひ協力してください。

Hi everyone.

Hello. We want to ask you as children living in Japan about your daily life and what you think. We want to think about your education and future and we want to use this survey to improve your education. Please help us and do your best in answering this survey.

これはテストではありません。名前も書かなくてよいので、どうぞ、ありのままを答えてください。

This is not a test. You don't need to write your name so please just answer honestly.

下の質問を一つずつ読んで、あなたの考えを教えてください。

Please read each question and tell us what you think.

やり方がわからなかったら、お父さんお母さんや日本語のわかる人に聞いてください。

If you don't know how to answer, please ask your mother or father.

(1) あなたのことについて教えてください。 Please tell us about yourself.

1) あなたの学年 Your grade () 年生 grade

あなたの年令 Your age () さい years old.

2) あなたの性別 Your gender ()

3) 今、日本であなたと一緒に住んでいる人はだれですか。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。()には人数を書いてください。

Who do you live with? Please circle everyone you live with.

Please write the number of people in the brackets.

1. お父さん Father 2. お母さん Mother 3. 兄姉 Older siblings () 人

4. 弟妹 Younger siblings () 人 5. おじいさん・おばあさん

Grandparents () 人 6. その他 Others () 人

4) 得意な教科は何ですか。 Which subject are you best at? ()

5) お小遣いは何に使っていますか。

What do you use your pocket money for? ()

6) 学校以外で何か習っていますか。Are you taking any classes outside of school?

1. はい Yes 2. いいえ No

→はいと答えた人は何を習っているか書いてください。

If yes, please tell us what you are learning. ()

(2) ことばについて質問します。あてはまる番号に○をつけてください。

Now we'll ask you about languages. Please circle the most suitable answer for you.

1) あなたは友達と遊んでいるとき、友達の日本語はわかりますか。

When you play with your friends, can you understand their Japanese?

1. わからない 2. 少しわかる 3. だいたいわかる

I can't understand. I can understand a bit. I can mostly understand.

2) あなたは授業中の先生の日本語はわかりますか。

Can you understand your teachers' Japanese in your class?

1. わからない 2. 少しわかる 3. だいたいわかる

I can't understand. I can understand a bit. I can mostly understand.

3) あなたは学校で日本語をもっと勉強したいですか。

Do you want to study Japanese more in your school?

1. 勉強したくない 2. どちらともいえない 3. 勉強したい

I don't want to study. I'm in the middle. I want to study.

4) あなたは家で主に何語を話していますか。

Which language do you mainly use in your house?

1. 日本語 2. お父さんやお母さんの国のことば 3. 両方(りょうほう)

Japanese The language of Father or Mother's country Both

5) 日本語とお父さんやお母さんの国のことばとでは、どちらが簡単(かんたん)ですか。

Which is easier for you, Japanese or your father or mother's language?

1. 日本語 2. お父さんやお母さんの国のことば 3. どちらも同じ

Japanese. Father or Mother's language Same

(3) 学校生活について質問します。あてはまる番号に○をつけてください。

Now we'll ask you about school life. Please circle the most suitable answer for you.

1) 学校は楽しいですか。 Is school fun?

1. はい Yes 2. どちらでもない I'm in the middle 3. いいえ No

2) 学校で困(こま)っていることは何ですか。

What's your biggest problem at school?

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

Please circle everything that you feel.

1. 言葉(ことば)がわからない I can't understand Japanese.
2. クラスのみんなと仲良(なかよ)くなれない I can't make friends easily.
3. いじめられる I get bullied.
4. 勉強がむずかしい Studying is difficult.
5. 宿題(しゅくだい)が多い There is too much homework.
6. 学校のきまりがよくわからない
There are a lot of school rules that I don't understand.
7. 給食(い)いや I don't like school lunch.
8. 先生とあまり話せない I can't talk to my teachers.
9. そのほか、あれば書いてください。

If there is anything that you don't like, please write here.

()

(4) あなたの遊びや家でのようすについて質問します。

Now we'll ask questions about your home and play.

1) 学校から帰って何をしていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

What do you always do after you come back from school? Please circle everything that you do.

1. 近所の日本人の友だちと遊ぶ。
Play with your neighborhood Japanese friends.
2. 同じ国の友だちと遊ぶ。
Play with your neighborhood friends from your own country.
3. 日本語教室(い)く Go to Japanese language school.
4. 塾(じゅく)に(い)く Go to a cram school.
5. 家族(かぞく)と家(い)る Stay at home with your family.
6. 一人で外(い)く Go out alone. 7. 一人で家(い)る Stay at home alone.
8. 宿題(しゅくだい)をする Do homework. 9. TV(テレビ)を見る Watch TV.
10. ゲームをする Play games.
11. その他あれば書いてください。 If there is anything else you do, please write here.

()

(5) あなたの将来(しょうらい)の希望(きぼう)について、1) はあてはまる番号に○をつけ、2), 3) と4) は () に質問の答えを書いてください。

Next we'll ask about your future dream. Please answer question 1) by circling the best answer, and answer 2), 3) and 4) by writing in the blank spaces.

1) 小学校を卒業してからどんな進路を考えていますか。

After you graduate elementary school, how long do you plan to stay in school?

1. 中学校までいく I'll stay until junior high school.

2. 高校までいく I'll stay until senior high school.

3. 大学までいく I'll go to university.

4. 今はわからない I don't know.

5. その他 other ()

2) 将来、あなたはどんな仕事(職業)につきたいですか。沢山ある人は3つまで書いてください。

What do you want to be in the future?

One answer is ok but if you have a lot, please write three options.

() () ()

3) 将来、あなたはどこの国に住みたいと思いますか。

Which country do you want to live in, in the future?

1 番住みたい国と、2 番目に住みたい国を書いてください。

Please write the country you most want to live in and the second one.

1 番住みたい国 First country ()

2 番目に住みたい国 Second country ()

4) あなたのお父さんやおかあさんはどこの国の人ですか。国の名前を書いてください。

Where are your father and mother from? Please write their nationality.

お父さん Father() お母さん Mother()

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。

This is the end of the survey. Thank you.

資料 1－2 調査 3（保護者用 日本語－英語）（＊日本語のふりがなを省略して記載）

調査 3 保護者用 For guardians

お子様の学校教育・生活に関する調査協力をお願い

Survey: Childhood education and life in Japan

保護者の皆さんへ To guardians,

こんにちは。私たちは、日本に滞在しておられる皆様の生活や子どもへの思い、また子どもの日本での教育や生活の実態や要望を調べ、今の教育のあり方を研究しています。そこで、以下のアンケート調査にご協力していただきたいと思えます。お忙しいと思いますが、最後まで記入してくだされれば幸いです。

Hello, We are researching the current education in Japan by finding out the thoughts of those staying in Japan about their life and children in Japan, to understand the current real situation and the demands people have. Therefore, we would appreciate if you could fill out the following survey to this end.

調査は無記名で行い、コンピュータで統計的に処理しますので、個人のプライバシーは絶対に守られます。

This survey is anonymous and the statistics will be processed by a computer in order to protect personal privacy.

(1) 現在子どもが通っている学校や教育についてお尋ねします。

We would like to ask you about your child current school and education.

1) あなたの子どもは現在学校に喜んで通学していますか。

1. はい Yes 2. どちらともいえない Neutral 3. いいえ No
→ 3. いいえ に○をつけた場合、それはなぜですか。

理由を下に書いてください。 If no, please tell us the reason.

()

2) あなたは、現在子どもが受けている教育に満足していますか。

Are you satisfied with your child's currently education?

1. はい Yes 2. どちらともいえない Neutral 3. いいえ No

3) お子さんの教育について、学校にどんなことを望みますか。

What do you want your child school to do for their education?

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

Please circle all the answers that apply.

1. もう少し日本語の読み書きを教えてほしい

I want them to teach a bit more Japanese reading and writing

2. 子どもの学習進度にあわせた学年にに入れてほしい

I want them to put my child into a grade the matches their ability

3. 教師と話し合う時間がほしい

I want more time to meet and talk with their teachers

4. 「お知らせ」「成績表」などを母国語に訳してほしい

I want notices and my child's report card in my language

5. 同じ立場の親との交流会などをやってほしい

I want to have meetings with parents in a similar position

6. 日本人の親との交流会などをやってほしい

I want to have meetings with Japanese parents

7. 進学など、進路についての学習をやってほしい

I want to learn about grade and education progression

8. その他ありましたら具体的に書いてください。

Other, please specify below.

()

9. とくになし Nothing in particular

- 4) 日本語での教科の学習は、あなたの子どもにとって難しいと思いますか。

Do you think it's difficult for your children to study in Japanese?

1. はい Yes 2. どちらともいえない Neutral 3. いいえ No

→ 1. はい に○をつけた場合それはなぜですか。理由を下に書いてください。

If yes, please tell us the reason.

()

- 5) 家庭ではお子さんにどんなことを期待して育てていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

What expectations do you have for your children? Please circle all that apply.

1. 生活習慣をみにつける 2. 個性をのばす 3. 日本語の習得

Life skills express individuality Japanese skills

4. 友達をつくる 5. 健康や体力 6. 親を手伝う

Making friends. Health and (physical) strength. Helping parents.

7. 深い信仰心をもつ 8. 責任感 9. 思いやりの心をもつ

Deep spirituality/faith Responsibility Be compassionate

10. 高い学歴 11. 高収入の仕事に就く

High education Obtain high salary job

12. 母国に帰っても生活できる

They can survive in their mother country if they move back

13. その他ありましたら書いてください。Other, please specify below.

()

6) お子さんは母国語をどのくらい話せますか。あてはまるNo.に○をつけてください。

How much can your children speak their native language?

1. 話せない They can't speak at all. 2. 少しは話せる They can speak a bit.
3. 話せる They can speak. 4. 十分話せる They can speak fluently.

(2) あなたご自身の日本での生活についてお尋ねします。

We would like to ask you about your life in Japan.

1) 日本での生活に満足していますか。 Are you satisfied living in Japan?

1. はい Yes 2. どちらともいえない Neutral 3. いいえ No

→ 3. いいえ に○をつけた場合それはなぜですか。理由を書いてください。

If no, please tell us the reason. ()

2) 近所の日本人との人間関係はうまくいっていますか。

Are you on good terms with the Japanese people in your neighborhood?

1. はい Yes 2. どちらともいえない Neutral 3. いいえ No

→ 3. いいえ に○をつけた場合それはなぜだと思いますか。理由を書いてください。

If no, please tell us the reason. ()

3) 日本での生活で困っていること、問題を感じる点はどんなことですか。

あてはまる番号に○をつけてください。

What is difficult about living in Japan? Please circle all that apply.

1. 日本語の問題 Japanese language problem
2. 物価が高いこと High prices. 3. 労働条件 Working conditions
4. 日本の習慣 Japanese customs
5. 家族が離ればなれ Separation from family
6. 母国の食材が少ない No foods from mother country
7. 住居 living conditions 8. 近所つきあい Communicating with neighbours
9. プライバシーが保てない I can't have privacy.
10. 友人がいない I don't have friends. 11. 健康上の問題 Health problems.
12. 社交や娯楽がない No social life or leisure time
13. 宗教上の問題 Religious issues 14. 子どもの将来 My child's future
15. 親子のコミュニケーション Family communication
16. 家計が苦しい Household finances 17. 家族関係 Family relationship
18. 親や兄弟姉妹に会えない I can't see my siblings.
19. その他ありましたら具体的に書いてください。

If there is anything, please write here.

()

(3) あなたは日本語がどれくらいわかりますか。

How much do you understand Japanese?

あてはまる番号に○をつけてください。

Please circle the most correct number for you.

1) 話すこと Speaking

1. 話せない

2. 少し話せる

3. 話せる

I can't speak Japanese. I can speak Japanese a bit. I can speak Japanese.

2) 聞くこと Listening

1. わからない

2. 少しわかる

3. わかる

I can't understand. I can understand a bit. I can understand.

3) 最近、家庭ではあなたとお子さんとの会話は何語が多いですか。

Recently which language do you mostly speak to your children in at home?

1. 母国語 ()

2. 日本語

3. それぞれ半分くらい

Native language

Japanese

Half and half

(4) さしつかえなければ、あなたご自身と家族について教えてください。

If it's ok, please let us know

1) あなたとこの調査用紙を持ち帰った子どもとの続柄は何ですか。

あてはまる番号に○をつけてください。

What is your relationship to the child who brought home this survey?

Please circle the most correct answer

1. 父親

2. 母親

3. 祖父

4. 祖母

5. その他()

Father

Mother

Grandfather

Grandmother

Other

2) あなたと一緒に住んでいる人はだれですか。あてはまる番号すべてに○をつけて、() 内に人数を書いてください。

Who do you live with? Please circle everyone you live with.

Please write the number of people in the brackets.

1. 配偶者 Partner 2. 子ども Child(人) 3. 自分の親 Your parent(s)(人)

4. 配偶者の親 Partner's parent(s)(人) 5. 自分の兄弟姉妹 Your sibling(s)(人)

6. 配偶者の兄弟姉妹 Partner's sibling(s) (人)

7. その他 (た) Other ()

3) あなたとあなたの配偶者の現在の職業は何ですか。あてはまる番号を () に入れてください。

What do you and your partner do now? Please write the most correct answer

あなたの職業 Your occupation No. ()

配偶者の職業 Your partner's occupation No. ()

【謝辞】

本調査にご協力いただいた菊川市教育委員会および菊川市内の小中学校の校長先生はじめ、担当教員、外国につながるのある児童生徒と保護者など関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【注釈】

注1：JSL カリキュラム

JSL カリキュラムとは、学習に参加するための学ぶ力の育成である。

「日常生活では流暢に日本語を操っている子どもたちも、いったん、学校の授業に参加するとその授業内容が理解できないことが多い。ここに、単に日常的な会話の力ではなく、学習に参加するための力、たとえば、違いを見つける力、関連づけて見る力などの「学ぶ力」の育成が大きな課題になってきたのである。しかも、こうした「学ぶ力」を基礎にして、各教科の授業に日本語で参加できる力を育成することが重要な課題になっている」ということで、開発されたカリキュラムである。（文部科学省 2003）

【引用文献】

- Bandura, A (1977) “Self-efficacy : Toward a unifying theory of behavioral change, *Psychological Review*, 84, 191-215.
- 拝野寿美子 (2005) 在日ブラジル人学校の機能に関する一考察 — N 校の事例 —
国際教育評論 2 pp20 - 36
- 厚生労働省 (2016) 外国人雇用状況の届出状況まとめ (平成 27 年 10 月末現在)
- 文部科学省 (2015) 日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査 (平成 26 年度)
- 文部科学省 (2003) 「学校教育における JSL カリキュラムの開発について (最終報告) 小学校編」 教育委員会月報 文部省調査普及局地方連絡課 第一法規出版 55(5), pp66-68, (2003 年 8 月)
- 杉岡正典 (2007) 「滞日日系ブラジル人親子の進路意識と学校適応との関連 — 地域間および学校間比較を中心に —」 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部第 56 号 pp263 - 272

【参考文献】

- 拝野寿美子 (2010) 『ブラジル人学校の子どもたち「日本か ブラジルか を超えて」』ナカニシヤ出版
- 小島祥美 (2012) 「2011 年度外国人生徒と高校にかかわる実態調査報告書 (全国の都道府県・政令都市の教育委員会+岐阜県の公立高校から)」 (科学研究費補助金若手研究 B)
- 坂野雄二・前田基成 (編) (2002) 「セルフ・エフィカシー の臨床心理学」 北大路書房

細川卓哉(2011)「外国人生徒の高校進学に関する教育課題―特別入学枠に着目して―」
名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻『教育論叢』第54号

